

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	ボランティア育成事業（主要事業）									
1 - 2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	社会福祉課	係	障がい社会係	評価票作成者	社会担当係長 石川順一		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉			基本施策	地域福祉			コード	2—2—4
		「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			単位施策(中)	地域福祉活動の充実・支援			コード	2—2—4—3
	項	社会福祉			単位施策(小)	ボランティア・NPO等の育成、活動の支援			コード	2—2—4—3—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	ボランティアに関心のある市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		ボランティアを育成し、お互いに支えあい助け合うことの大切さの気運の醸成を図る。				
1 - 5 事務事業の内容	社会福祉協議会にあるボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成及び活動を支援する。									

2 ■事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識						
	平成18年度	社会福祉協議会のボランティアセンターを通し、ボランティア活動を支援している。			福祉事業の推進には、ボランティアの協力が不可欠になってきている。		現役世代を卒業した方を中心として、ボランティアへの関心は高まっている。					
	平成19年度	"			"		"					
	平成20年度	"			市にボランティア保険ができたため、その保険に加入する団体ができたため、減少した。		"					
	平成21年度	"			福祉事業の推進には、ボランティアの協力が不可欠になってきている。		"					
	平成22年度	社会福祉協議会のボランティアセンターでの登録団体は、既に目標数をクリアしている。今後は、どんな支援をしていくのかが役割となってくると思われます。										
	平成23年度											
	平成24年度											
	平成25年度											
	平成26年度											
	平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	ボランティアセンター登録団体数				65(団体)	70(団体)	社会福祉協議会のボランティアセンターに登録しているグループ数					
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	活動実績a（単位）	58(団体)	70(団体)	68(団体)	77(団体)	79(団体)						
	直接事業費b（千円）	2,968	2,968	2,913	5,944	6,105						
	人件費c（千円）	67	66	66	65	63						
	合計コストd（b＋c）（千円）	3,035	3,034	2,979	6,009	6,168						
	単位コストd／a（千円）	1団体当り52	1団体当り43	1団当たり44	1団当たり78	1団体当たり78	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明	→	直接事業費としては、社会福祉協議会のボランティアセンター事業費の10%及び人件費補助分を計上。 (H20年度)事業費2,574千円×10% = 257千円、人件費2,656千円、合計2,913千円。市の人件費として0.01人分を計上。6,624千円×0.01人 = 66千円 (H21年度)事業費1,854千円×10% = 185千円、人件費5,759千円、合計5,944千円。市の人件費として0.01人分を計上。6,457千円×0.01人 = 65千円（H22年度）事業費1,960千円×10% = 196千円、人件費5,909千円、合計6,105千円。市の人件費として0.01人分を計上。6,266千円×0.01人 = 63千円
---------------------	---	--

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績（団体）	58	70	68	77	79					
	後期目標値 に対する達 成度（％）	82.9	100.0	97.1	110.0	112.9					

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己 分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	ボランティアの活動を盛んにするため、ボランティアセ ンターの事業をさらに強化する必要がある。	次年度開催される全国ボランティアフェスティバルへの参 加	社会福祉協議会のボランティアセンターと連携の強化を図った。
	平成19年度	〃	ボランティア登録会員（個人）の増加への取り組みを強化 する。	市民の意識の高まりにより、地域のグループが増加した。今後も登録グルー プ数は増加予定である。
	平成20年度	〃	〃	本年は、市のボランティア保険の影響を受けたが、グループは増加している ので、取り組みを強化したい。
	平成21年度	〃	〃	市民の意識の高まりにより、防犯等の地域で活躍するグループが増加した。 今後も増加予定である。
	平成22年度	ボランティアセンターへの登録団体は既に目標数を達成していますが、今後は、その中で自立したボランティア団体の育成やボランティア団体の支援できるボランティア団体すなわち中核となるボ ランティア団体の育成が必要となると考えています。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		